



## 山下 博之

独立行政法人 情報処理推進機構

技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター

エンタプライズ系プロジェクトリーダー

## 高いレジリエンスによるITサービスの継続

～「高回復力システム基盤導入ガイド」解説～

### プロフィール

1981年京都大学大学院修士課程（情報工学）修了。同年、日本電信電話公社（現NTT）入社。以後、研究所において、通信制御処理システム、高機能通信プロトコル、分散協調処理、著作権管理、コンテンツ流通等に関する研究開発・標準化活動に従事。2003年10月に（株）NTTデータに転籍。2004年～2008年、独立行政法人科学技術振興機構（JST）に出向。2009年4月に（株）NTTデータアイ入社、同時にIPAに出向し、現在に至る。2003年10月～2008年4月、科学技術振興調整費プログラムオフィサー。米国PMI認定PMP。情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会主査。情報規格調査会SC6専門委員会委員長。IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

### 講演概要

昨年の東日本大震災により、社会や企業を支える情報通信や情報システムの停止、データの喪失等により長期にわたって業務停止に追い込まれた地方公共団体や企業があった。被災企業等では、一部の大手企業を除き、情報システムの災害対策や被災時の対応手順等が十分に整備されていなかったという調査結果が公表されている。震災を契機に企業等の中で事業継続への意識は高まっているものの、従来のBCPに関する指針が難解であることから、未だに具体的な対策の着手に至っていない企業等が多いのが現状である。

そこでIPA/SECでは、ITサービスのレジリエンス(回復力)の底上げを目的として、「高回復力システム基盤導入ガイド」を公開した。同ガイドは、初心者向けに、平易な内容で情報システムの継続に必要な考え方と構築手順を解説している。また、IPA/SECが普及に努めている「非機能要求グレード」を活用し、網羅的に対策を例示している。さらに、東日本大震災による情報システムの被災状況を調査し、その結果得られた教訓や復旧に活用された新しい技術・サービスの事例等も紹介している。